Vol.17 2021年 秋·冬号

企画・編集: U-CoRoプロジェクト・ワーキング (CEL 弘本由香里、B-train橋本護・小倉昌美) http://www.og-cel.jp/project/ucoro/index.html

エネルギー・文化研究所 (CEL) ※U-CoRo=ゆーころ(ト町台地コミュニケーション・ル 問合せ先: tel.06-6205-3518 (担当: CEL 弘本)

<

### 「上町台地 今昔タイムズ」とは

千数百年を遥かに貫き、 雄大な風景を尊ぶ歌から、

まりを通

0)

宫

3

5

かず

n

わたしたちが暮らす"上町台地"。古代から今日まで絶えることなく、人々 の営みが刻まれています。天災や政変や戦災も、著しい都市化も経験しまし た。時をさかのぼってみると、まちと暮らしの骨格が浮かび上がってきます。 自然の恵みとリスクのとらえ方、人とまちの交わり方、次世代への伝え方…。 過去と現在を行き来しながら、未来を考えるきっかけに、U-CoRoプロジェ クト第2ステップでは、壁新聞「上町台地 今昔タイムズ」を制作いたします。

西には大阪湾が、

妹子が

付

H

U

紐

かず

え

け

道

を

て来

į

で

出発の日に見送ってくれる人がいてくれたらなあ諸国の防人が難波に集結して船飾りをしている。

我かりゃ

世 **社** 

2

t

2

を

古来、遠い国への船出の地であった"難波(なにわ)"は、旅の景色や愛別離苦の心情を三十 一文字(みそひともじ)に込める、和歌の生まれる台地、歌枕として人々の心を惹きつけてやま ないコスモロジーを宿してきました。時は流れ、歌枕が姿を消したかに見える近現代の短歌にも 背後には万葉の時代から激動の中世を経て近世・近代へ、絶えることなく時代に寄り添い相聞 し、今日を生き明日につなぐ糧となる、有名無名の言葉と魂が連なっていることに気づかされま す。コロナ禍2年目の秋、常ならぬ世に新たな視野を開くべく、心の旅に出かけましょう。

与謝野鉄幹(1873~1935) と晶子(1878~1942)の出 会いは1900年8月、浜寺 公園での歌会。のちに、晶 ・鉄幹・山川登美子の3 人で大阪や京都に遊ぶ。 の時詠まれた歌は、歓喜 と苦悩に満ちて、明治期 の青春の相聞歌(そうもんか) として名高い。また、後の 鉄幹の歌集に『相聞(あびぎ え)」(1910年)があり、同 書に序文を寄せた森鴎外 は、歌人としての鉄幹の功 績を高く評価している。

らさき品はあれど妹にきせんは白菊の 見出して、二人の間に交わされた言いよう 帰らぬをしら菊さけば嘆かる、かな」を 氏※は、その十二年後の新聞に掲れています。この妹は誰なのか。肥 花」を読んだと、友人に送った葉書に記さ 高津祠外に菊を見て、「きぬ傘のあかきむ 菊が多ろ庵でした。鉄幹は、 の風物、高津宮近くにあった菊の名所・翫 を媒介していたのは大阪・上町台地の秋 **子謝野鉄幹と晶子の時を越えた魂の相聞** 歌の中に、「久しくも京大阪に 明治三二年秋 載され 旧時三

代を 逅 京大阪 1) 回 H 拓 日日

波の情景が数多く描かれています。上町台地の北端に難波抱いた人々が行き交った、海に開かれた首都・副都たる、難 駒山の裾まで広がっていました。海と陸が交わり織り成す 帝が何度もお通いになる難波の宮は海のそばにあるので海人の 佘良時代に編まれた「万葉集」には、さまざまな思いを胸に って来てと妻がつけてくれた紐が切れてしま 読むものの心を揺さぶり続け 防人たちの惜別や望郷の歌まで る は 東には草香江が生 緒絕 海 许 B 現在の 難波宮跡 82 く思い 、蘆が散る

> 相聞歌は、「万葉集」で「相 聞(そうもん)」に分類される歌。男女、または親子、兄弟、 友人の間の、恋慕や親愛の 情をのべた歌。その大部分 は男女の恋愛をうたったもの で、のちに転じて恋の歌の意

> > 人にみせばや津の同人にみせばや津のの春は夢なれら難波の春は夢なれら

しきを」を本歌とし、

国の難波わり

先駆ける数多の 平安時代末期

歌を残

倉時代初期

時

を

駆

ける

原

風

東国から召集された防人(さきもり)が、愛する人と の別れに詠んだ歌は「万 葉集」に90数首残る。こ のうち84首は、755(天 平勝宝7)年に筑紫に赴 く防人を難波まで引率し てきた役人から、当時防 人検閲の任にあった大

蘆

から

散

方人の歌 から Ł (丹比 部 國足

伴家持が採録したもの。

泡 (『手紙雑誌』第一件 八九九)年十

「大阪名勝図絵」第一号の「翫菊庵」の挿図(1903年、金尾文淵堂、提供:肥田晧三氏) 翫菊庵は高津宮の表門を出て東へ進み、谷町筋を越えたあたりにあった菊の名所。 明治時代には秋になると鉢植えの菊がきれいに並べられ、大阪の人々の秋の遊覧場所としてにぎわった。

つらい思いに嘆き苦しんでいる今は、

び

ぬ

は

た

同

なる

身を

7

むとぞお

t

難波にある、舟の水路を示す

鎌倉

万葉

の歌から当時の歌まで心のままに選び抜いた秀歌 時代初期に勅撰和歌集を編んだ藤原定家が、かるたでも広く知られる「小倉百人一首」は、 澪標」の言葉のように、この身をつくしてもあなたにお逢いしよう

難波を歌枕とする恋の歌が三首

いずれも、難波んと

「小倉百人一首」(菱川師宣画、1680年)より。 国立国会図書館デジタルコレクション

百首。そのなかに、

、みをつくし、の二つの言葉を詠み込んでいます。

も選ばれています。うち二首は、

皇嘉門院別当 8 < 介 0

第

号

百

を生み出す豊穣の歌枕であったことがわかります。 波は、地名「なにわ」と「何は」の二つ意を表し、 つの意を表します。、難波、とは 縁語のみをつくしは「澪標」 倉百人 て 0 と一身を尽くし 首 ゃ か 思 (千載和歌集) いもよらぬ物語 ひ 12 難波 の 0

節ではないが た る D 当

澪標(みをつくし)は、船の 通り路に、水先案内のた めの標識としてさす杭の ことで、水路の多い難波 のものが名高い。和歌で は、「身を尽くし」を掛けて使われることが少なくない。 元良親王 〈小倉百人一首(後撰和歌集·拾遺和歌) 難波あたりのこ 宿命を受

8

津の国と运行

更なる視野が

因法師

あ

5 〈後拾遺和

む わ

0)

国

0

0)

の

た風景は、まさに「津の国」。広大な蘆 原は、大阪の原風 景と言えるもの。鎌 倉時代には、西行 法師(1118~1190) が立ち寄り、この風 景に心動かされ、歌 を詠んだとされる。

(新古今和歌集) 0) 蘆の枯葉に遠く風が吹きわたっているばかりだ 国 0 0) か n な 12 n 風 わ た

额

津の国、難波の蘆原の光景に見入る西行、「西行物語絵巻」より、国立国会図書館デジタルコレクション \*和歌の文字表記や解釈などは、岩波書店の「新日本古典文学体系」(「万葉集」「拾遺和歌集」「後拾遺和歌集」「千載和歌集」「新古今和歌集」ほか)を参考にしています。

※(i、ii)上町台地今昔フォーラムvo.19(2018年3月4日)にて、肥田皓三先生の講演で紹介された、二つのトビックに基づく。先生は1930年大阪島之内生まれ、書誌学・近世文学を専門に、上方文化の碩学として多くの業績を残され、2021年2月ご逝去。忘れ得ぬご芳情に深く感謝申し上げ、ご冥福をお祈り申し上げます。

渡来人・王仁(わに)博士が献じたとの伝説を持つ「難波津に 咲くやこの花冬籠り 今は春べと 咲くやこ の花」の歌を、紀貫之は「古今和歌集」の仮名序で取り上げ、"歌の父"のようであり、"手習いのはじめ" にもすると記しています。この歌は、21世紀の今も暮らしのなかに生き、競技かるたの序歌ともなり、多

文化共生のまちの歌碑ともなり、人々の心にあたたかな光を運んでいます。 五・七・五・七・七の定型には、分け隔てなく言葉を解き放ち、余白を相手の想像に委ねる、不思議な 包容力があります。和歌・短歌は、決して過去の文化ではありません。今再び、その魅力が、若い世代 をはじめ幅広い層に見いだされ、孤独や分断や格差を越えて、他者を想いリスペクトする知恵の一つと もなり、まちのなかで鼓動を打ち、いきいきと呼吸をしています。

# 波津の歌が秘める

表記の書が現存すると知ったことでした。江戸時代(1811年)、朝 鮮通信使へのもてなしに対馬の通訳官が墨書したものが龍野の旧 家に残されていたのです。これを受けて、朝鮮半島をはじめ外国にル -ツを持つ人が多く暮らす多文化共生のまち、大阪・生野コリアタウ ンで、この歌の碑を建てようとの提案が起こり、2009年春に委員会 を設立しました。幅広い関係者の協力を得て、なんとか寄付金が集 まり建碑に漕ぎ着けました。歌は史料から、ハングル、万葉仮名、かな で碑に併記。結果として、日本人と在日コリアンが協力して建立したとい う点で、地域にとってもたいへん意味深いことだと感じています。



歌碑の除幕は2009年10月31日。建立委員会は「猪 収약の原輸は2009年 (1月31日: 是出く会員会は3億 飼野探防会員の当時の代表、姜信英さんが今長、足 代健二郎さんが事務局長を務め、上田正昭・京都大 学名誉教授も特別顧問として加わった。委員会は約 360万円の寄付金を集め、縦1.8メートル、横0.8メート ルの境石をつくり、そこにハングルの愚書、万葉仮名 かなり、大きにかりがの無けて際とは参加・ ルの碑石をつくり、そこにハンクルの臺灣、カ来ルの の木簡、古今和歌集の3つの書体で歌を模刻した。

足代健二郎さん (元王仁博士歌碑建立委員会事務局長、猪飼野探訪会代表)



梅花に添えて奉った歌と伝えられ る。その歌碑が牛野コリアタウンの 神は仁徳天皇)に建てられている。

かず 優 熔 る 天满切 国を

情

かり

l

2 0) 世界 12

子に真夏が

"相聞"の台地を旅する 言葉の力で呼び覚ます歌枕のコスモロジー

歌人高田ほのかさん

## 大阪のまちを歩き と会い、歌をつくる



「100首の短歌で発見!天神橋筋の店ええとこここやで」/ 高田ほのかさんは、天神橋筋商店街で、2015年から丸5年をか けて店主100人の話を聞き、その人の想いを100首の短歌に詠んだ。

### **僧る短歌で育むコミュニケーション**

高田ほのかさん 私の創作の原点は何かと考えたと き、子どもの頃、少女漫画の主人公のモノローグに 強く惹かれたことを思い出します。その人物との心の 交流を感じていたようです。その意味で、私は短歌を ひとつのコミュニケーションとして捉えています。明治 期以降、短歌では我(bh)を表現する傾向が強まっ たように言われます。そんななか、私は「贈る短歌」と いう方法で、まちを歩き、人に会って思いを受け止め、 その人の立場から歌を詠むことを続けています。三十 -文字に大きな物語を込めることができるのが短歌 の世界。その意味でも、短歌が誰かへのエールにな ればうれしい。そんな想いからの活動が天神橋筋商 店街の100首となりました。







生野区の横野神社跡に、「紫 草の根延ふ横野の春野には 君を懸けつつうぐひす鳴く も」(紫草の根が生え延びる 横野の春の野で、あなたを 思って鶯が鳴いている)の歌 碑が建っている。揮毫は万 葉学者・犬養孝の手による。

コワーキングスペース



今波

春



# 「暇活」

### とにかく自由。ワイワイ言いあいながら

ここは、大阪の中心部でありながら、昔懐かしい町並みが残る「からほり」にあり ます。坂道があり、皆さん、商店街を通ってやってくる。この土地にはすでに「物語」があるようです。 「物語」というのをこのワークショップでは大切にしています。また、ここでは先生



と生徒という感じはなく、参加者それぞれの歌をみんなで一首つくり上げるようなやり方ですね。 「一怪佑さん」参加者は、まずカードを2枚引いて、そのキーワードを題材にして、自分がイメージする「小説(短い物語)」を考えます。 そこからことばを選び出して歌をつくるという手法で進めます。ある 人がこの過程を「添削」ではなくて「編集」だと呼んでいましたが、 みんなでより良いことばをワイワイ言いながら、探していきます。そ の際には、悪い点を指摘して否定するのではなく、その短歌が持 つ輝きを見つけて、最も輝く形にみんなで近づけていくんです。談

ル置くお茶はふるえるさ





郷土研究雑誌『上方』第70号 (1936年)の表紙。長谷川貞信画 「高津翫菊庵」(一面に関連記事)

(契沖旧庵、墓所) 天王寺区の円珠庵は、江戸時 代初期の和学者・契沖(1640 ~1701)が晩年に隠棲して、古 典の研究に親しんだ場所。彼 の代表的著作「万葉代匠記」 万葉集を注釈したもので、 葉集の体系的な研究として後

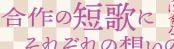


ヶ崎芸術大学

詩人で、NPO法人こえとことばと

ゲストハウスとカフェと庭 ココルーム

陽 痛 畑かないないない なあっ



### とばが出会い、楽しく刺激的な場が立ち現れる

上田假奈代さん 合作の俳句や短歌づくりは、何人かが、即興で五七五・・をつなげていくやり 方。これは詩人の大岡信さんがいう「座」の実践です。座は日本独特の文芸形式で、彼はこれを「孤独を自覚する者同士が、日常性とは別次元の関係でつながり、生きる楽しみを共にする」こと だと説明します。昔から歌の世界には連句の伝統がありますが、ここでの特徴は、素養がなくても、 いろいろな背景の人たちが、短いことばを捻り出し、つないでいくことです。そこでは、ことばとこと ばが出会い、思いもかけない感覚や情景が立ち現れてきて、本人もビックリしたり、みなで大笑い したりします。その時、確かに楽しく刺激的な場所に身を置いていることに気づかされるのです。談



天王寺区



横野色神社跡

● 生野 ゴリアタ 御幸森天神宮 生野区

# 競技かるたで

### 千年前の人たちの想いを感じながら感覚を研ぎ澄

菱田俊浩さん 9年前に部員2名ではじめた同好会が、今では部活動として、30名を超える 規模になりました。生徒たちは、自主的に練習法なども工夫して熱心に取り組んでおり、かる た甲子園の大阪府代表を目指して日々切磋琢磨しています。また、難波津の歌が序歌として、 競技かるたの開始時に読み上げられることが多いのも、大阪の学校として思いは深いですね。 小西桜子さん 競技かるたの魅力は、スポーツ的な楽しさとともに、千年前の人が詠んだ歌 に心通わせる感覚があるところです。日々の活動では。歌の暗記はもちろん、はらいなどの対 戦練習だけでなく、ランニングをして体力強化をはかるほか、体幹を鍛えるなど、気力体力、 、いろいろな要素を鍛えるように努めています。札をたくさん取れたときの爽快感は最 



鎌倉時代の歌人、藤原家隆 (1158~1237)の「契りあれば 難波の里にやどりきて波の入 難破の単にやとりきて波の人 日を拝みつる哉」の歌碑が天 王寺区の夕陽丘に建つ。晩年 この地に移り住み日観観を修 めた家隆は、夕陽に向かい合 掌しつつこの世を去ったという。



博士の折口信夫(釈迢空、1887 ~1953)が、歴史ある地に思い を馳せて詠んだ「小橋過ぎ鶴 橋生野来る道は古道と思ふ見 覚えのなき」の歌碑が建つ。